

## 一第48編 一 船で通う首都

立憲君主制を敷くノルウェーは、北極海およびノルウェー海に面し、南北に長い海岸にはフィヨルドが発達している。高緯度地帯に位置しているが、北大西洋海流が分枝する暖流のノルウェー海流の影響を受け、オスロもそうだが冬でも不凍港であるほど温暖で穏やかな気候に恵まれている。また、陸地の殆どをスカンディナヴィア山脈が占め、平地はほぼ無いに等しい。

首都オスロ地域の人口は約61万人。近隣諸国の首都（ストックホルム<sup>\*1</sup>・87万人、コペンハーゲン<sup>\*2</sup>・56万人、ヘルシンキ<sup>\*3</sup>・61万人）とほぼ同様で、市内の三分の二が自然保護区に指定されている。国全体としても約五百万人程度であるから、日本全土とほぼ同じ広さの国土に人口密度は僅か12人／km<sup>2</sup>（日本は343人／km<sup>2</sup>）に過ぎない。



写真48-1 オスロ港



写真48-2 水上バスにて

\*1  
Stockholm: スウェーデンの首都  
\*2  
Copenhagen: デンマークの首都  
\*3  
Helsinki: フィンランドの首都



写真48-3 水際の住まい

の島が存在し、343もの湖がある。これらの湖がオスロ地域の重要な給水源となっている。

このように、岩盤の入り江に面して作られたオスロでは、いたるところに豊かな自然と、北方海洋文化が顔を出す。港から水上バスやタクシードリアス式海岸のクリークを巡ると、勾配のきつい岩盤と緑を愛でるように点々と続く戸建住宅が見える。ノルウェー人の建築家の友人も、そうした住まいから船で首都に通う毎日を楽しんでいた。仕事前の朝食はその船上でとると言う。オスロはそんなうらやましい贅沢が当たり前前にできる水辺の首都である。

い。スカンジナビア一帯に共通するが、この密度の低さがすべてを規定しているといつてよい。

オスロはオスロ・フィヨルドの最北奥に位置し、南側で海と接する。その他の三方は丘もしくは山で囲まれている。市域にはおよそ40も



写真48-4 オスロ都心の公園